

編集者 清水節義
発行所 白根町公民館
印刷所 菅勇印刷所

社会教育と公民館の在り方

白根町社会教育委員 真島如能雄

現代各處に叫ばれて居る、社会教育と公民館の在り方とを関連して、私見を述べて見たいと思ふ。

社会教育は、社会教育法第二条に「家庭と勤務の場所、その他社会において行われる教育」と定義して、その主たる対象を青年と成人に於てあるから、対象者の大部分は一定の仕事、換言すれば今日の生活の爲に働いて居る者である。仕事を伴つて居る者は無制限に「時」と「金」とを持つて居ない、而もその「時」の暇（ゆとり）を仕事の種類に従つて、それぞれ異にして居るから、社会教育の方針は一律に樹て得ないと思ふ。

理想

目下御外遊中の皇太子殿下は、去る四月英国へ向はせられる前に、わずかに三時間ばかりの御滞在であつたが、ニューヨークに一度立ち寄り、その一時をホテル・ビニールで、かつて親しく皇太子殿下の家庭教師を勤めたヴァインング夫人と御談話になつたと報せられた。

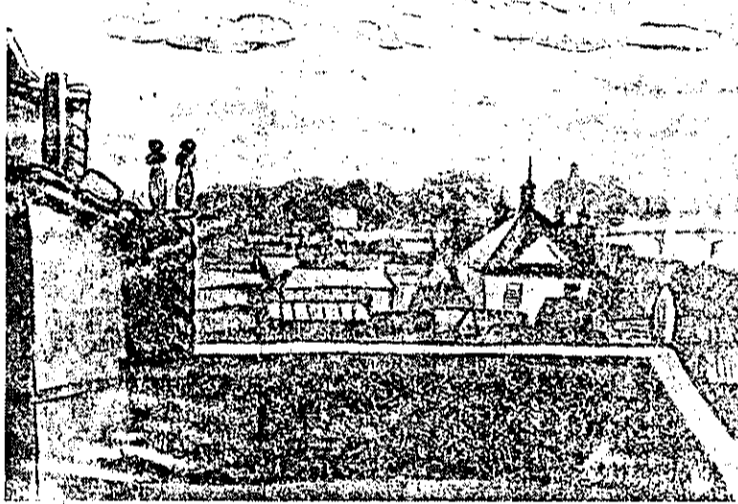
我がノートより

その完結を望むこと久しかつたが、本年五月小泉一郎氏の「皇太子の窓」が発行された。近々伝説、独断版が出るとの事であるが、要訳は既に日本語版のほかに世界の五十八ヶ国で、十二ヶ国語による合計二十八種の版で既まれていることである。

やかしてはならない。前述のやうに、凡ての人間が自ら實際生活に即した文化的な教養を高め、行く事が出るように、環境を醸成するよう努めなければならない。...

紙上デッサン展

青野会 富岡耕作



中蒲原郡略史

伊丹末雄

大正十四年（一九二六年）九月、上杉景勝は再び兵を従えて新築田、五十公野の両城を攻め、上杉景勝に降参させた。

たそがれの町

夏の夕べ、陽は西のはてへ沈んで、かすかな残光が町をなでている。中の口の流れだけが拭き残した涙のようにキラッと光つて見える。

終戦後八年の日を迎えるのも間近の頃、皇太子の窓を綴りつゝ、あの敗戦後の昏迷虚脱の数年間をさしめるとして、その間、日々新聞紙上の論

この時本郡の満願寺源誠（新津市）、庄瀬新藏（庄瀬村）等も蜂起して群衆を率え、三条城を圍んで攻めた。外郭がおちると、新築田城主

後継され、家康の子松平忠輝が越後長十五年（一六一〇年）松平忠輝が山田半人正勝に城を移す。九月、上杉景勝が伊豆守政一に勝つた。寛永十六年（一六三九年）十月、村松三万石の領主に加後守直時が任ぜられた。

